

大阪・西ノ辻遺跡

- 1 所在地 大阪府東大阪市東山町・弥生町・西石切町三丁目・南荘町・宝町
- 2 調査期間 第四三次調査 二〇〇〇年(平12) 五月～一〇月
- 3 発掘機関 東大阪市教育委員会
- 4 調査担当者 才原金弘・吉田綾子
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

西ノ辻遺跡は、生駒山地西麓部、標高七～二〇mの扇状地に立地する。本遺跡は特に弥生時代中期末から後期中葉の標式遺跡として著名である。現在までの調査で、遺跡の範囲は東西約四〇〇m南北約六〇〇mと推定されている。今回報告する第四三次調査地から西方の第四二次調査地にかけて、奈良時代か

ら平安時代の集落跡が確認されている。第四三次調査では、弥生時代中期から後期、古墳時代の各遺構と同一面上で、奈良時代末から平安時代初頭の井戸・土坑・ピットが検出された。

今回紹介するのは、平安時代初頭の井戸五の井戸枠に遺存していた組上げのための番付の墨書である。井戸五は先行する井戸七の規模を拡大するために造り替えたもので、掘形の平面は隅丸方形を呈し、一辺約三m深さ三・七mを測る。井戸枠は一辺一mである。

井戸枠内からは墨書土器が四点出土している。「富益」「三嶋」のほか、「乙□□」や判読不能な資料が一点ある。いずれも土師器杯・皿に書かれている。この他に、須恵器杯・皿C、製塩土器などがある。

8 木簡の釈文・内容

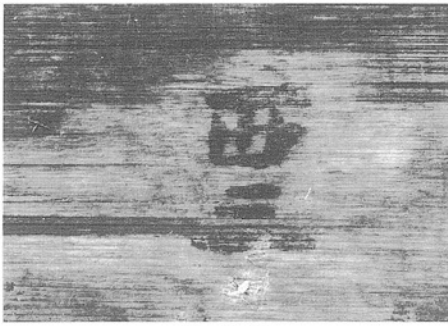
(1)	「海」	50×875×36	061
(2)	「田」	245×1010×22	061
(3)	「田」	190×988×43	061
(4)	「田」	180×967×22	061

東側の横板の基底部より二番目に(1)が、西側の横板の基底部より三・四・五番目にそれぞれ(2)(3)(4)が遺存していた。井戸の横板方向の最下段からの序数詞が墨書の数字と一致する。文字はいずれも木目と直交する方向に書かれている。これらは、現地で井戸を構築する際の順序を記した組上げ番付で、平城宮跡SE一六八Aに類例があるほか、長岡京跡にも類例がある(本誌第一八号)。

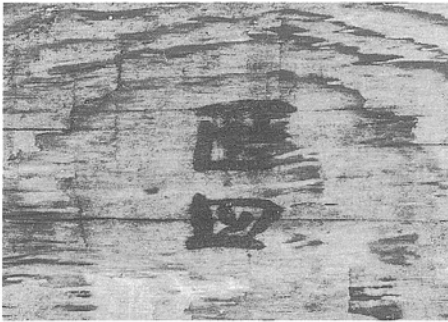
9 関係文献

東大阪市教育委員会『東大阪下水道事業関係発掘調査概要報告—平成二二年度—』(二〇〇一年)

(菅原章太)



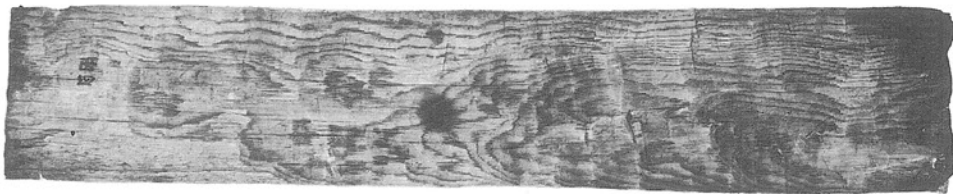
(2) (部分)



(3) (部分)



(2)



(3)